

平成17年12月5日

平成17年度 学校協議会 記録

大阪府立槻の木高等学校
教育政策部 山本 尚

日 時 平成17年 12月4日(土) 午後4時

場 所 槻の木高等学校 会議室

参 加 加治佐さん(兵庫教育大教授)
斉藤さん(大阪外国語大学講師)
吹田さん(槻の木高等学校 PTA 会長)
壺谷さん(元高槻市 PTA 協議会会長)
田鎖さん(京大セミナー取締役副社長)

校長、事務部長、教頭、秋元、浅田、奥谷、山本

内 容 ① 学校長挨拶

第1回協議会より様々な提言をいただいて学校づくりをすすめてきた。まだまだ手を入れなければならないことがたくさんあるが、概ね順調と思われる。3年の進学では、指定校推薦以外でも、同志社大学や大阪府立大学や大阪教育大学など、合格している。これからはセンターテスト及び一般入試に向け、冬期講習の計画をたてているところである。予定では12月31日まで行う。夏期講習では田鎖さんをはじめ、京大セミナーの方が見に来られ大変喜んでいいる。今後も、ご意見をいただきたいと思う。

② 司会より、第2回協議会の趣旨説明(教頭)

③ 司会交代(壺谷さん)

壺谷さん

本年度はちょっと遅い第2回の学校協議会になったが、よろしくお願ひします。まず、学力向上にむけた取り組みのアンケート結果がでており、そのことについて長井教頭先生より報告をお願いします。

教頭

大学希望者と全生徒対象の集計があるが、ほぼ同じ結果が出ている。特徴的な数字は、

- ・先生との懇談の数字がやや低い
- ・家庭学習の時間が少ない
- ・学習意欲に積極性が見られない である。

先日行った学校説明会の感想をプリントにした。中学生の反応もよく、好評であった。

④ 各委員より報告・提言

田鎖さん

夏期講習を見に行った。私を含め、3名派遣。英語・国語・化学の講習を見せてもらった。いい印象を受けている。うちの講習よりも和気藹々で楽しい部分もある講習で、生徒は大変素直で、反応もよく、好感が持てる。高校3年のあの時期としては教材の内容も適切と考える。

講習の難しい点としては、高3の夏休みは生徒の意識や学力の格差が最も大

きい時期で、どのレベルにあわせるかが難しい。また、どんなタイプかという問題点もある。センターか、国公立2次か、私学一般か、どこに向けた講習かということも考えなければならない大切な視点である。冬期講習の資料を見ていると、その点で改善されているようである。

加治佐さん

学校経営に関する教員研修であるが、学校経営の成功例を出しながらすすめることを考えている。学校改革は改革当初の成功がいかに継続されるかが難しく、そういった点における成功事例を提示していきたい。

斉藤さん

9月、京橋にあるフィリピン総領事館に、槻の木高校のユネスコ部8名が訪問した。総領事館の訪問はそうそうあることではなく、貴重な体験になったのではないか。そこでは総領事館の仕事・役割を教え、施設見学やスタッフとのおしゃべりなどで過ごした。短い時間だったが、いろいろ交流できてよかったと思っている。国際理解の学習につながったと思う。

壺谷さん

地域交流について報告したい。槻の木高校は地元の評判もよく、高槻1中だけでなく、高槻小ともサッカーで交流がある。地域の人間として大変ありがたい。1中の出身生徒が少しずつ増えていくようにしたい。これからも連携をお願いしたい。

壺谷さん

地域フォーラムについて報告したい。地域の方々が槻の木高校に対してどんな感想をもっているか、地域の理解をよりすすめていく目的としてこの度開かせてもらった。特に教育に関心のあるメンバー6名を集めて、槻の木高校の説明の場を提供した。槻の木高校の単位制の理解がされ、反応も大変よかった。できれば年1回で行っていきたい。

教頭

岡山さんの協力でHR合宿を計画中。近場でより学習に重点のおいた合宿を考えている。

吹田さん

P T Aの立場としては、進学に対する講習をたくさんやっていただいているのは大変ありがたいことだが、一方で単位不足になり、卒業が危ぶまれている生徒にもスポットをあててもらいたいと考える。その場合は特に保護者の学校の成績や単位に対する意識改革が必要だが、学校側からもより徹底した連絡をお願いしたい。

⑤ 質疑応答

加治佐さん

アンケート結果の進学希望の数字、%は槻の木高校としてはねらい通りか。

教頭

年々国公立志向が高くなっている。1期生の16%は低いという評価である

加治佐さん

勉強時間の少なさは、宿題が少ないのでは。宿題はださないのか。また、その程度の勉強で学校の授業について行けるのか。

教頭

自ら勉強する力が本校の課題である。

秋元

学校として宿題のあり方や出し方を検討したり、統一したりはしていない。

田鎖さん

講習はあまり手取り足取りすると逆効果。勉強しなくなる。

加治佐さん

大学に行くと放ったらかしなので（最近の大学はそうでもないようだが）
ついて行けなくなる危険性がある。

田鎖さん

学校説明会は好評で、地域に対する評価も上がり、槻の木高校からメッセージ配信はたくさんされている。今度は学力形成と進学実績として学校が応えなければならぬ。また、個性的な生徒がAO・推薦入試等で合格している。自己主張できる生徒を育成することも大切では。

壺谷さん

学校説明会のアンケート結果でも書かれてるように、槻の木高校の生徒は挨拶やマナーは素晴らしい。

奥谷

今は、先輩から後輩に指導されているようである。教員は毎朝、校門で生徒に呼びかけることをやっている。

吹田さん

挨拶などは皆がするからできる。

田鎖さん

学校がそういうシステムをつくったということ。

壺谷さん

中学によっては取り組んでおり成果をあげている。1中も見習ってほしい。

斉藤さん

槻の木高校の生徒の外国の人とのコミュニケーションを拝見していると、教育的なものを感じている。

校長

半期認定による留学制度を府は検討している。

田鎖さん

薫英が進学実績を上げていった要因は、国際化をつくりたくさんの留学生を出していったからである。英語力が大変上がっている。

加治佐さん

アンケート結果からは大学の授業体験は学習意欲の点では効果が上がっていないようだ。進路決定のためだけのねらいになっているのでは。

教頭

その設問には、校外活動（遠足）で行った体験授業で答えている生徒がおり、その数字は信頼しにくい。実際は感想文の中で概ね好評だった。

田鎖さん

槻の木高校は最初は様々な目的意識で入学してきているが、最近は勉強中心の学校という認識である。中学生はいろいろ高校に求めるが、最終的には勉強面の期待感で学校を選択する。そういった中学生の要望に応じていただきたい。

壺谷さん

協議会のそれぞれのメンバーが、それぞれの場所で、槻の木高校を育てる手助けをしていくことが大切。注目されている学校なので、よろしく願いしたい。

次回は3月に開催することを確認して終了しました。